

無期雇用で、安心しながら 責任とやりがいを持って成長できる



会社データ(2016年12月現在)

【事業内容】小売業

【所在エリア】全国

【事業所・店舗数】9ヶ所

【従業員の内訳】正社員2,657名

(うち、いわゆる正社員971名、多様な正社員1,686名)
非正社員29名

【URL】<http://www.IKEA.jp>

ビジョンに共感し、誕生日に入社面接を受ける

2013年、商社で正社員として働いていた蓮池健男さんは、「やりがい」と「人の生活を豊かにする仕事」という2つの軸を持って転職活動を行っていました。そんなとき、イケア・ジャパンの「より快適な毎日を、より多くの方々に」というビジョンに共感し、30歳の誕生日に同社の非正社員(有期雇用、短時間勤務)の面接を受け、入社を決めました。

その当時フルタイムの正社員の募集はありませんでしたが、入社後に正社員転換が可能だと知っていて、経験を積んで正社員を目指そうと考えていました。入社当初は最も勤務時間数の短い週4日、1日4時間～7時間程度の勤務時間で、IKEA Tokyo-bayの1階の倉庫「セルフサービスエリア」に配属され、在庫管理や配置アレンジ、購入方法の分からないお客様に対する接客などを行いました。

正社員をめざして、勉強の毎日を送る

非正社員であっても、仕事内容はフルタイムと同等なので、勉強の毎日を送っていたと振り返る蓮池さん。セルフサービスエリアには約9,600点の商品が並んでいて、かつそれらを配置する場所も決まっているため、最初は覚えなければならないことがたくさんありました。そこで蓮池さんは商品を覚えるためにマニュアルを熟読したり、覚え方から上司に指導してもらったり、不明点があればホームページから情報を得るなど、できるかぎりの知識を詰め込んだそうです。

有期雇用の悩みを乗り越え、社内公募制度を積極的に活用

正社員をめざす蓮池さんでしたが、勤務先の店舗では正社員が就くポストに空きがなく、新店舗がオープンしない限り正社員の募集はほとんどなかったそうです。

貯金を使いながら何とか生計を立てていましたが、「このままずっと非正社員のままだったらどうしよう」と焦る気持ちもありました。両親には転職したことを言えず、友人にも会いづらい状況でした。「正社員になることができなければ2～3年で見切りをつけて辞めよう」とも考えていました。

そして、「それまでの間はどんなチャンスにもしがみつきたいこう」と考え、蓮池さんは「OPEN IKEA」に積極的に応募していきます。OPEN IKEAとは、同社の社内公募制度で、会社が必要としている部門やポストに社員が異動できる仕組みのことです。蓮池さんはこの制度に2回チャレンジをし、正社員をめざしました。

挑戦の先に、チャンスが見つかる

最初は2014年、店舗業務の基本は学ぶことができたので、今度は少し異なる業務を経験したいとIKEA BUSINESS部門を志望。無謀かもしれないとは思いつつも、マネージャーのポストに応募しました。マネジメントの経験がなかったためか、結果は不合格。悔しい思いをしました。その3カ月後に2回目のOPEN IKEAへのチャレンジでIKEA BUSINESSの正社員に応募しました。今度こそはと思って臨みましたが、最終選考で二人まで絞られた結果、惜しいところで不合格となってしまいました。

結果のフィードバックをもらった際、2回目のOPEN IKEAで面接官だった、当時のIKEA BUSINESS(法人担当)のセールスマネージャーから「次にポストが空いた

ら声をかけるから待っていて」と言われました。蓮池さんは「社交辞令だろう」と思っていたのですが、その2カ月後にセールスマネージャーから「IKEA BUSINESSに異動しないか」と声を掛けられてとても驚いたと言います。そして、2016年3月から現在のIKEA BUSINESSに異動しました。

短時間正社員への転換で安心して働けるように

OPEN IKEAに挑戦している間の2014年に、同社の人事制度改定が実施され全社員が無期雇用になりました。蓮池さんは有期雇用の非正社員から無期雇用の短時間正社員へ転換。蓮池さんは「ああ、このままここにいるのいいのか」と安心しました。

短時間正社員への転換と同時に働ける時間数が週38時間に増え、任せてもらえる業務も多くなったことで責任の幅も広がり、さらにやりがいを感じるようになりました。

フルタイムの正社員と短時間正社員では勤務時間の差から収入が少し異なるだけで、仕事内容や待遇は変わりません。OPEN IKEAへの応募もちろん可能です。

現在、蓮池さんはIKEA BUSINESSで企業や団体、自営業者を対象に営業をしています。具体的には、企業からのメールによる注文と大量購入のサポートを担当しています。発注前の見積作成から、支払い方法の相談、商品の取寄せ・納品・組立てスケジュールの調整・出荷の手配などの顧客担当を行っています。

同社のビジョンのもと、同僚たちとともにチャレンジを続ける

今後は、現在の部署でもっと仕事を覚えて、部署の仕事をさらに効率的にするなど、職場環境を良くしていきたいと考えています。

まずは店舗のIKEA BUSINESSで営業のスペシャリストになり、その後マネージャーをめざしたいと考えていますが、働いているうちに進みたい方向が変わって、店舗のスペシャリストではなく、本社の仕事にチャレンジするかもしれません。目下のところはフルタイムの正社員にチャレンジしたいと考えています。

同社のビジョンである「より快適な毎日を、より多くの方々に」のもと、「イケアですっと働きたい。素晴らしい同僚たちと一緒に働いていきたい。ここに居場所がある」という気持ちが、蓮池さんが同社でチャレンジし続けるモチベーションになっています。



「多様な正社員」の働き方の特徴・処遇

名称	短時間正社員
働き方の特徴	【時間限定】労働時間「週12～24時間」あるいは「週25～38時間」から本人の希望に応じていずれかを選択。
主な仕事内容	いわゆる正社員である「39時間正社員」と同じ。
給与体系・水準	39時間正社員と同じ給与テーブル。同じ職務を担う場合、全社員が同じ賃金となる。
人事評価、昇進・昇格	39時間正社員と同じ。昇進・昇格の上限なし。
教育訓練の機会	39時間正社員と同じ。
雇用区分の転換	OPEN IKEAへの応募・合格により、39時間正社員への転換が可能。

人事担当者からのコメント

2014年9月に社員を全員無期雇用へ転換し、「同一労働同一賃金(同じ職務に対しては、所定労働時間の長短に関わらず、社員に期待する水準を同一に設定し、同一の賃金を支払う)」を適用して、すべての社員に「正社員」の待遇を保障しています。

社員全員が無期転換したことで、離職率が半分に下がりました。当社で扱う商品は多種多様であり、それらに関する知識を、時間をかけて習得しなければならないため、離職率の低下はサービス提供にあたって大きなメリットです。さらに、短時間勤務でも正社員としてキャリアパスが描けるようになったことで、「当社で働く」＝「自分の成長につながる」と考える者が多くなりました。

今後は、これまで以上に個々の社員の成果をうまく評価する仕組みを採り入れることが重要だと思っています。